

ヒトパピローマウイルス

HPV自己検査のご案内

子宮頸がんの早期発見のためには、子宮頸がん検診が最も有効です。検診を受ける時間のない方や、抵抗がある方は、HPV自己検査を無料で受けられるこの機会に、ぜひ検査を受けてみましょう！

HPV自己検査とは

子宮頸がんの主な原因とされる高リスク型 HPV(ヒトパピローマウイルス)に感染していないかどうかを調べる検査です。ご自身の子宮頸がんリスクがわかります。

結果は“陽性”または“陰性”でお知らせします。

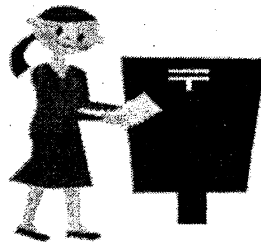
検査方法

検査セットを用いて、ご自身で採取した子宮頸腔部細胞を郵送し検査機関で検査をします。

《 検査の流れ 》



①検査機関から
検査セットを郵送



②ご自身で細胞を採取し、
子育て・健康推進課に郵送



③後日、検査結果を郵送

対象者

○20~45歳まで(昭和52年4月1日生~平成15年3月31日生)の女性

○過去5年程度、子宮頸がん検診を受けていない町民

※前年度 HPV 自己検査を受けている方は、該当になりません。

検査料金

無料

通常 6,000 円ほどかかる検査ですが、今回は無料で受けられます。

申込期間

6月17日(金) 但し定員になり次第、受付終了します。

申込方法

電話:0135-21-2122(子育て・健康推進課)

申込フォーム:



余市町 HPV 検査

検索



子宮頸がんについて

原因

HPVの持続感染が主な原因です。HPVは主に性的接触によって子宮入口付近の“頸部”に感染します。HPVは100種類以上の型が存在し、その中でも数十種類ほど存在する、“高リスク型HPV”の感染が、がんに進展するリスクが高いとされています。

症状

子宮頸部に感染したHPVが増殖した場合、不正出血を引き起こすことがありますが、初期の子宮頸がんであれば、ほとんど自覚症状はありません。

放置すると

HPVに感染しても、多くの場合は、自己免疫力で自然に排除されますが、排除ができず感染が持続してしまうと、数年～十数年かけて、子宮頸がんを引き起こすことがあります。

子宮頸がんは、20～40代の女性にとっても増えています。その背景には、性体験の低年齢化、その年齢層の検診受診率が低いことなどがあると考えられています。

町実施の子宮頸がん検診について

対象者

20歳以上 ◆受診間隔は、2年に1回です

料金

1,000円

生活保護世帯の方は無料です

平成9年4月1日～平成10年3月31日生の方は無料です

日程が決まっている検診

検診日	会場	備考
11月26日(土)	福祉センター(富沢町)	詳細は広報10月号の折込チラシをご覧ください
11月27日(日)	中央公民館(大川町)	

ご自身の都合に合わせて受けられる検診

実施期間	備考
令和4年8月1日(月)～ 令和5年3月31日(金)	詳細は広報8月号の折込チラシをご覧ください

※事前に、役場に申込が必要です。役場より、検診を受けるための受診券等を発行・郵送します。